

第2回 「防災リーダー研修」を開催しました！

7月20日（水）、各町内会長や町防災部長など総勢61名の方にご参加いただき、「防災リーダー研修」を開催しました！

今回のリーダー研修では、総合防災訓練で実施したアンケート調査結果を共有した後、朱一学区の将来像や、災害につよいまちをつくるために、各町内会や朱一学区防災まちづくり協議会が「取り組むべきこと」、取組を実現するためのアイデアについて意見交換を行いました。

参加者からは「地震は明日起きるかもしれない。みんなで防災について話し合うことが大切」、「このままでいいと思っている人もいるが、次の世代のことも考えよう！」など様々なご意見をいただきました。

いただいたご意見を踏まえ、『防災まちづくり計画』を策定していきます。ご参加いただいた町内会長や町防災部長のみなさん、ありがとうございました。



防災上の課題の確認や
目指すべきまちの
将来像について
話し合いました。



災害に強いまちにする
ために、取り組むべき
ことについて意見交換
をしました。



グループごとに意見交
換の内容を発表し、み
んなで共有しました！

参加者のみなさまから様々なご意見をいただきました！

《学区全体の将来像・大事にすべきこと》

- 若い人にとって魅力のあるまちにしたい。
- 安心して住めるまちにしたい。
- 世代間を超えたコミュニケーションが必要。
- 次の世代のことをしっかりと考えることが大切。

《各町内会が取り組むべきこと》

- 回覧板や掲示板を活用して、「町内会の集合場所」をしっかりと周知する。
- 町単位でまちあるきをし、危険箇所を点検する。
- 町内会長や自主防災会の役員の引継ぎ体制をしっかりと行う。
- 高齢者や一人住まいの方が多いため、町内会同士連携する。

《協議会に取組んで欲しいこと》

- 防災まちづくりについて町内会で話し合う機会が必要。
- 継続的な防災リーダー研修の開催。（防災リーダーの育成。）
- 様々な助成制度等の情報発信。

など

朱一 学区 防災まちづくり協議会 NEWS

vol.7 (2016年9月)

発行・編集：
朱一学区防災まちづくり協議会
〒604-8871
京都市中京区壬生朱雀町 8-2
「朱一会館」

ご報告！

「朱一学区防災まちづくり協議会」が京都市に認定されました！

今後も災害につよいまちを目指して活動していきます。



朱一学区では、平成26年度から「朱一学区防災まちづくり協議会」を立ち上げ、災害につよいまちの実現を目指して防災まちづくりに取り組んでいます。この度、これまでの取組が認められ、「朱一学区防災まちづくり協議会」が京都市の「防災まちづくり活動団体」に認定されました！これにより、朱一学区内で耐震改修する際、併せて防火対策を行うことで補助金が上乗せされます（昭和56年以前の木造住宅が対象）。詳細は、下記問合せ先にお問い合わせください。

今年度末には、これまでに皆様からいただいたご意見を踏まえ、『防災まちづくり計画』を策定する予定です。災害につよいまちの実現のためには朱一学区が一体となって、防災まちづくりを進めることが大切です。引き続き、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

耐震助成制度についての問合せ先：京都市住宅供給公社 京（みやこ）安心すまいセンター
TEL：075-744-1631

これまでの取組については、京都市のホームページでご覧いただけます！



総合防災訓練で「防災まちづくり」に関するセミナーやアンケート調査を実施しました！



6月12日（日）に開催した今年度の総合防災訓練では、昨年度に作成した「防災まちづくりマップ」を使った避難訓練を行いました。その後、体育館に集まり、熊本地震の被災状況やこれまでの「防災まちづくり」の取組の報告、「防災まちづくり」に関するアンケート調査を行い、市の耐震補助制度についても情報発信しました。

アンケート調査の結果につきましては、次のページに記載していますので、ぜひご覧ください。アンケートでいただいたご意見・アイデアを踏まえて『防災まちづくり計画』づくりを引き続き進めていきます。

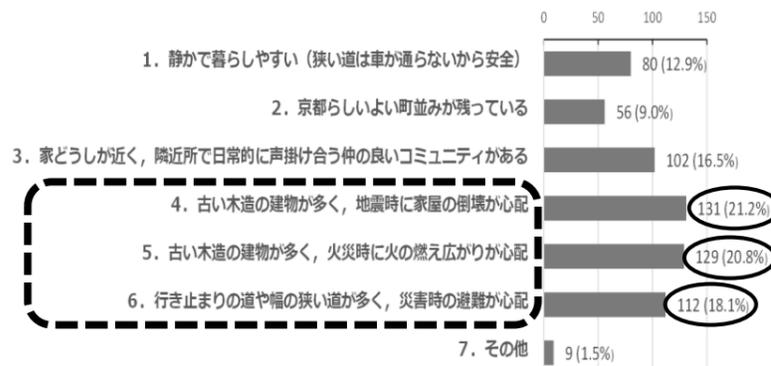


アンケート結果は、P.2～3をご覧ください。

「防災まちづくり」に関するアンケート調査結果の報告

Q. 朱一学区についてあなた自身はどのように感じていますか。

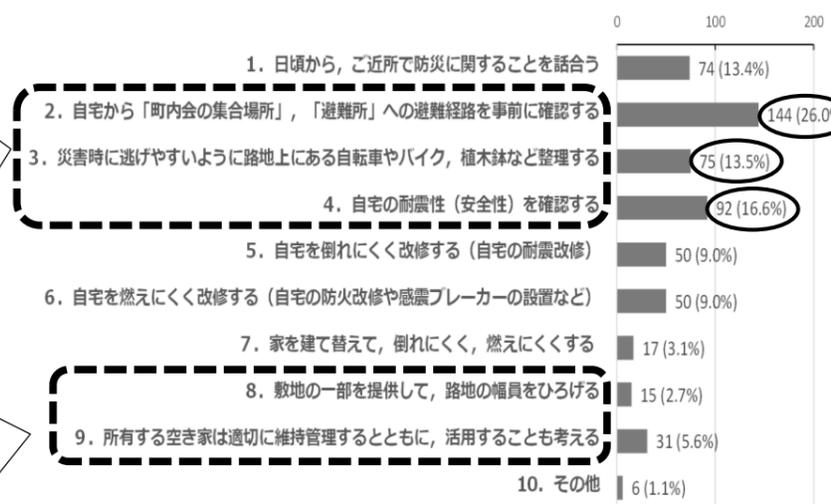
災害時の「家屋の倒壊」や「火の燃え広がり」・「避難」の心配といった、日頃から不安に感じている回答が多くありました。



Q. 災害につよいまちを実現するために、あなた自身が取り組む必要があることは、次のうちどれですか。

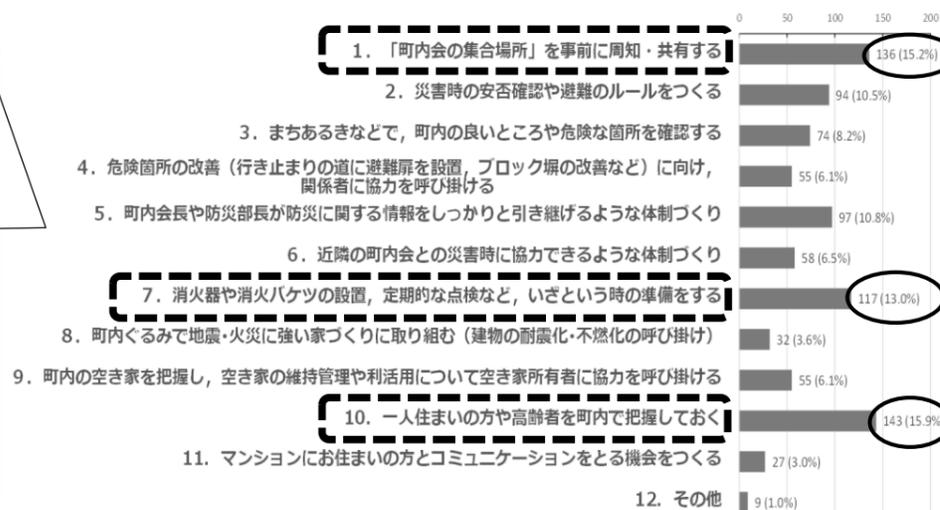
「町内会の集合場所」や「避難所への避難経路」の事前確認など身近にできることから取り組んでいくという回答が多くありました。

「敷地の一部を提供して、路地の幅員をひろげる」、「所有する空き家の適切な維持管理、活用についても考える」などの回答も一定数あることが分かりました。



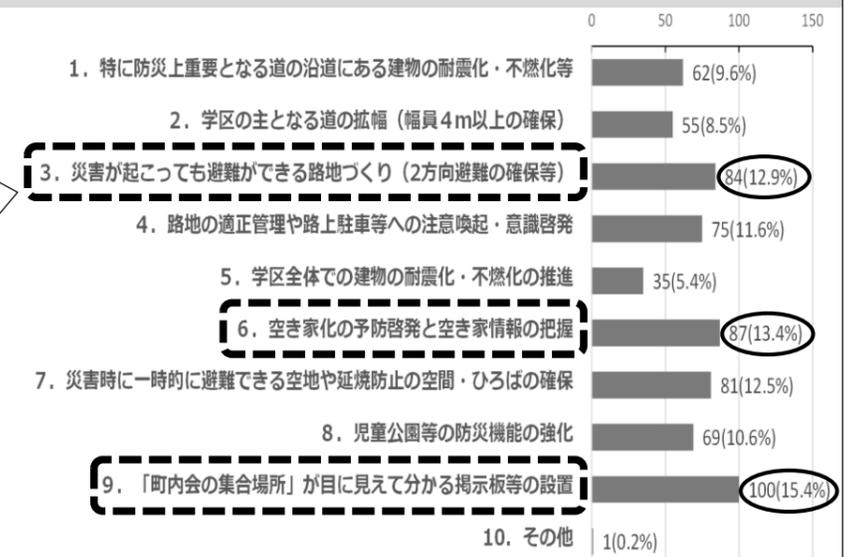
Q. 災害につよいまちを実現するために、各町内会が取り組むべきだと思うことは、次のうちどれですか。

「一人住まいや高齢者の把握」の回答が最も多く、次いで「町内会の集合場所の周知・共有」、「消火器や消火バケツの設置、定期的な点検など、いざという時の準備をする」という回答が多くありました。



Q. 災害につよいまちを実現するために、朱一学区全体で取り組むべきだと思うことは、次のうちどれですか。

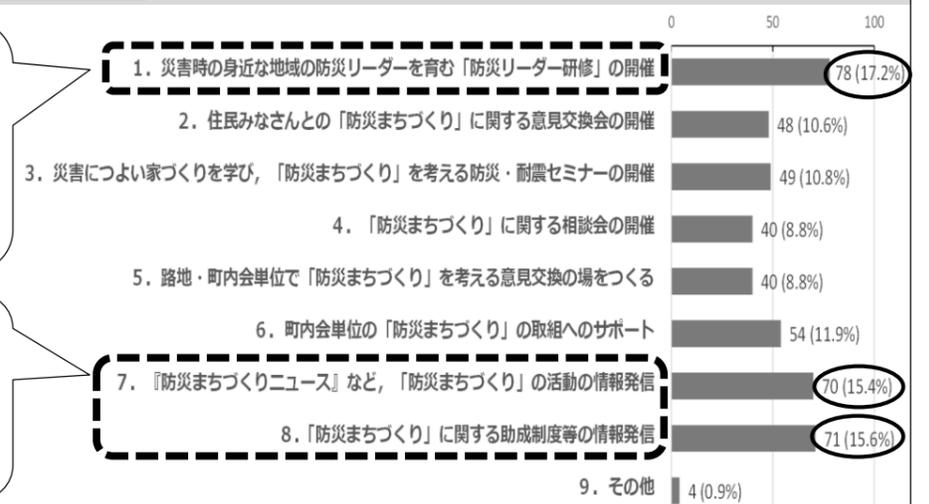
災害につよいまちにするために、学区全体で「みち」「いえ」「まち」それぞれの対策を進めていく必要があります。



Q. 学区全体で防災まちづくりを進めていくために、『朱一学区防災まちづくり協議会』に取り組んで欲しいことは、次のうちどれですか。

「防災リーダー研修の開催」という回答が最も多く、防災リーダーの育成へのニーズが高いことが分かりました。

「防災まちづくりニュース」、「助成制度の情報発信」は今後も継続していきます。



Q. 総合防災訓練を振り返って、朱一学区がどのようなまちになると良いと思いますか。(主な意見)

- 何が起こってもより少ない被害で済むような、町づくりにみんな(学区民)の力を結集できればと思います。広報、訓練の必要性を感じました。
- 路地に自転車や車が止まらないようにし、逃げやすくしておくべき。
- 古い町家を残しつつ、耐火性のある家づくり。
- 朱一学区には木造長屋が多く、耐震化を考える必要がある。
- 昔の様に家の門に防災バケツを置き意識を高めて防災の町を造りたい。
- 朱一学区全体が、いざという時に協力し合える、コミュニケーションが行き届いているまちになったら良い。
- 若い世代が積極的に運営に参加してくれるようになればいいなと思う。